

2017-18年度 活動実績

創立50周年記念事業 『おもてなしプロジェクト』

2017.7月~12月 PRキャンペーン
50円自動販売機の設置

2017.11.7 (火) 健康器具・公園名板
羽島市へ寄付及び移管 除幕式



11/9 (木) 岐阜新聞掲載 ▲

創立50周年記念講演会

2018年5月24日 (木) 不二羽島文化センターにて厚切りジェイソン講演会



「挑戦、スキル身に付けて」

「新しいことに挑戦して、どんどんスキルを身に付けて」と来場者にアドバイスする厚切りジェイソンさん
＝羽島市竹鼻町丸の内、不二羽島文化センター

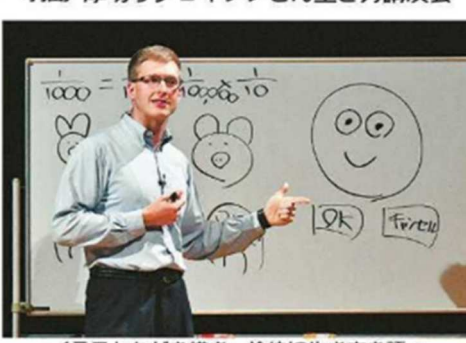


◀ 5/27 (日)
岐阜新聞掲載

5/29 (火) ▶
中日新聞掲載

「いっぱいスキル持つ」

羽島 厚切りジェイソンさん生き方講演会



イラストなどを描き、愉快に生き方を語った厚切りジェイソンさん＝24日、羽島市の不二羽島文化センターで (羽島RC提供)

お笑い芸人の厚切りジェイソンさん(33)が生き方について語る講演会が、羽島市の不二羽島文化センターであった。羽島ロータリークラブ(RC)が創立50周年を記念して聞き、千人が聴いた。子どものころから立身するため、周囲と差をつけたいという思いで、米出身の厚切りジェイソンさんは、好きで身に付けたコミュニケーションスキルの知識と日本語の能力のおかげで現在の仕事に就いた経験を紹介。「スキルは組み合わせることで価値が高まる。僕は、新しいことに挑戦する時間を最優先で用意している」と人生の哲学を語った。

お笑いの「Why Japanese people」のネタは舞台で偶然生まれ、調整を重ねて今の形になったと説明。「自分ができていることや世の中から必要とされていることは、最初から完璧を目指さず、リスクのない最低限のやり方で、一歩を踏み出して」と語り掛けた。(龜山大樹)

「いっぱいスキルを持つ」というのが大事と考えてきた。米出身のジェイソンさん。「千人の中で一番できる人になるのは難しい。でも、十人に一人しかできない専門性を三つ持てば、それは千人に一人の専門性を持つと同じ価値がある」と考えを披露した。

実際にプログラミング技術や日本語などを次々と身に付けた経歴を紹介。二十三歳でIT企業の社長に就任し、その後、お笑いの世界でも成功した。

「いっぱいスキルを持っていた方が価値ある人間になる。一つのことだけに専念する。可能性もそれだけに広がる。だから僕は次から次へとスキルを足していっている。いっぱい新しいことをやってみよう」と呼び掛けた。(水越直哉)

羽島ロータリークラブ

羽島ロータリークラブは、繊維産業を中心に発展し、新幹線岐阜羽島駅と名神高速道路岐阜羽島ICを中心とした交通拠点の羽島市と、岐阜市柳津町をテリトリーとし、1968年に岐阜ロータリークラブのスポンサーによって創立した。

この郷土は「円空仏」で知られた円空上人誕生の地であり、又孝子、篤行の人で知られた永田佐吉翁などを輩出し、大賀ハスや竹鼻別院の藤も美しいところです。

バナーは、坂倉新平画伯(当地出身)が描かれたデザインです ▶

